

第5章 保健・医療・福祉の総合的な取り組み

第1節 健康づくり

ポイント

現状と課題

- ・平成18年度生活習慣病実態調査の結果分析から、男女を問わず40歳代からメタボリックシンドロームの該当者及び予備群が増加する傾向にあり、とりわけ、50歳代の男性の5人に1人が該当者。
- ・「健やか山梨21」を策定し計画を推進。
- ・メタボリックシンドロームの概念に着目した「健やか山梨21」の見直し。

対策

- ・生活習慣病の予防
- ・人材の育成

< 現状と課題 >

平成13年に生活習慣病の増加、要介護高齢者の増加、予防医学の進歩等から、国で策定した「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を踏まえ、「健やか山梨21」計画を策定し、各種施策を実施してきました。

平成17年には中間評価の結果及び高齢化の更なる進行、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の概念を導入した生活習慣病対策など、社会情勢の変化や予防医学の新しい知見を取り込み、「健やか山梨21 - 2006年版 - 」を策定しました。

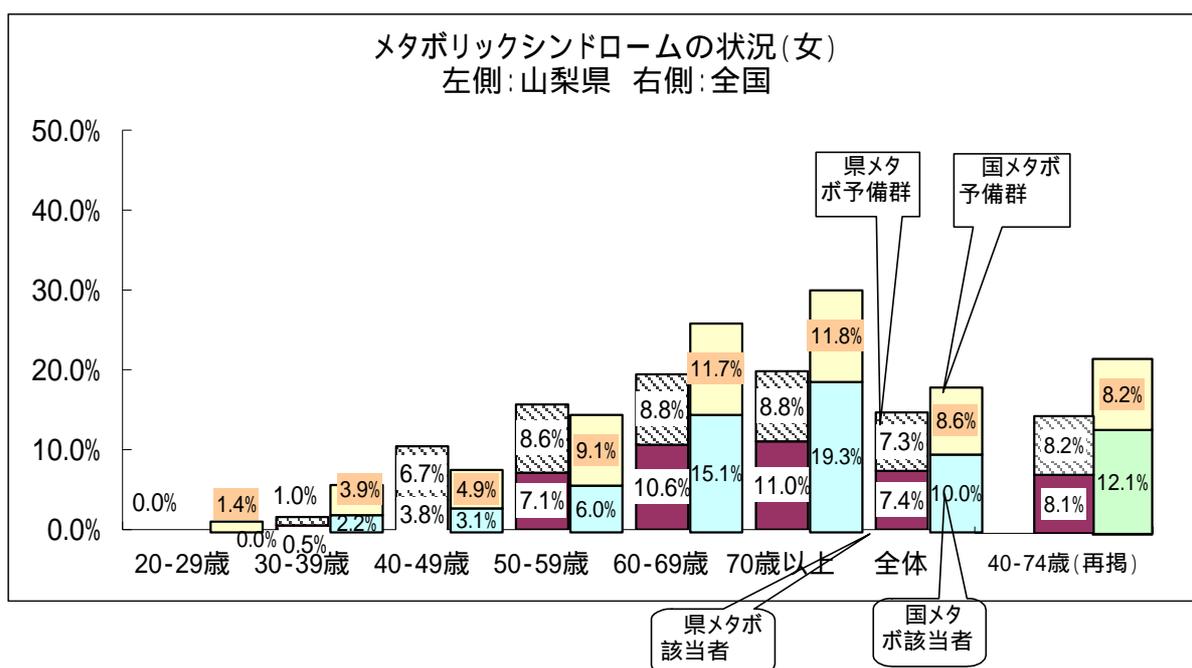
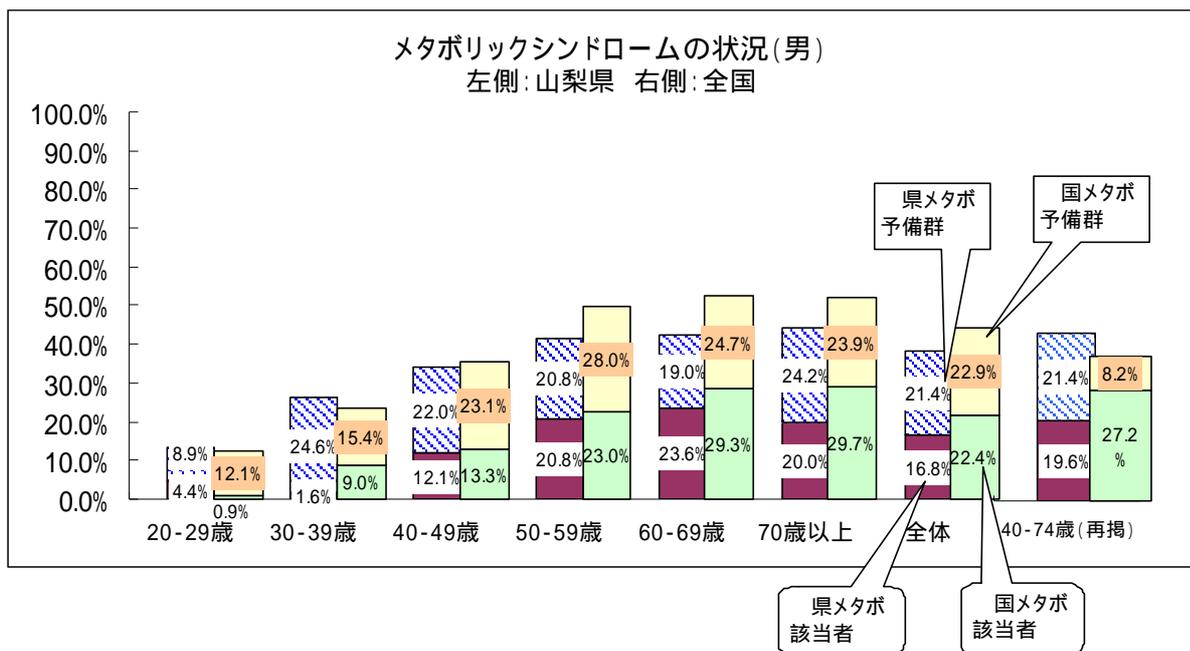
食習慣の変化や慢性的な運動不足、喫煙、ストレスの増大等により、肥満や高血圧、脂質異常、高血糖などが増えており、これらを原因とする生活習慣病が大きな社会問題になっていることから、本県の実態を把握するため、平成18年度に生活習慣病の実態調査をした結果、男女を問わず40歳代からメタボリックシンドロームの該当者及び予備群が増加する傾向にあり、とりわけ、50歳代の男性の5人に1人が該当者であることがわかりました。

平成20年4月から実施される医療制度改革において、生活習慣病対策が中長期的な医療費適正化を目指す上での重要な柱の一つに位置づけられたことと併せて、医療保険者に対して特定健康診査等の実施が義務付けられました。

このため、「健やか山梨21 - 2006年版 - 」を見直すこととし、内臓脂肪型肥

満に着目した生活習慣病の有病者及び予備群数の減少率や特定健康診査・保健指導の実施率など、新たな目標項目や数値目標を盛り込んだ「健やか山梨 21 - 2008年版 - 」を策定しました。

老人保健法に基づき実施されてきた老人保健事業は、平成 20 年 4 月からの医療制度改革に伴い、健康増進法に基づき実施されるとともに、がん検診も同法に基づき実施されます。



< 対策 >

1 生活習慣病の予防

「健やか山梨 21」（県健康増進計画）の推進

メタボリックシンドローム予防の概念を取り入れた健康づくり施策の実施や地域・職域保健との連携、保険者協議会との健康づくりに関する情報の共有などを通じ、計画の目標達成に向けた県民の健康づくり施策を推進し、個人の健康づくりを社会全体で支援していきます。

また、達成目標（特定健診実施率 70%、特定保健指導実施率 45%、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病の有病者・予備群 10%減）を実現するため、健診後の保健指導を確実に効果的に実施し、県全体のメタボリックシンドロームの該当者・予備群を減少させるための体制整備を図ります。

特定健診・保健指導の実施等に向けての支援

市町村における健康増進計画の策定及び医療保険者による特定健診等実施計画に基づく特定健診・保健指導の実施に向けた支援をしていきます。

また、生活習慣病と歯周病は相互に関わり合いがあることから、医科・歯科の連携や市町村等における歯の健康への取り組みを支援していきます。

健康増進法に基づき実施するがん検診、健康相談、健康教育等の推進

健康の保持増進並びにがん、生活習慣病の予防・早期発見・早期治療及び介護予防のため、市町村が行う各種事業の実施に対する支援をしていきます。

2 人材の育成

研修会等を通じた人材の育成

効果的な生活習慣病予防に向けて、保健指導従事者を対象とした高度かつ専門的な健診・保健指導を推進する手法を獲得する研修会を実施します。

また、地域において、生活習慣病予防を実践する担い手を増やす事業を実施します。

< 推進体制 >

エラー！ 編集集中のフィールド コードからは、オブジェクトを作成できません。

< 指標（数値目標） >

目標項目等	現状	平成24年度目標
市町村の健康増進計画の策定数	22市町村(H19)	28市町村
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少(男性)	79,580人(H18)	72,467人(約10%減少)
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少(女性)	32,381人(H18)	29,402人(約10%減少)
研修修了者数(延べ)の増加	1,000人(H19)	2,550人